

成蹊小学校



東京帝国大学在学中から人材育成の重要性に目覚め、自らの理想とする教育を実現すべく立ち上がった若き教育者、中村春二により開設された成蹊小学校。『史記』の有名な一節「桃李不言下自成蹊」（桃李ものいはざれども、下おのづから蹊を成す）から採られた校名に、独自の教育理念が深く刻み込まれている同校の魅力について、跡部清校長に語ってもらいました。



あとべ さやか
跡部 清校長

「適度な負荷」を乗り越えることで育まれるたくましい実践力

—— 誰にも備わる 困難に立ち向かう『心の力』 ——

—— 2025年に創立110周年を迎える成蹊小学校の教育理念についてお教えください。

成蹊学園創立者・中村春二は、当時の画一的教育や教育機会の不均等に疑問を持ち、自らが思い描く理想の教育を目指します。生涯の友となる今村繁三（後の今村銀行頭取）と岩崎小弥太（後の三菱総裁）の賛助を得て、1912（明治45）年に成蹊実務学校を創立、成蹊小学校を1915（大正4）年に開設し、独自の人間教育を実践します。成蹊学園は建学の理念として「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」を掲げ、小学校では中村の理念である「師弟の心の共鳴」と「自奮自発の精神の涵養」の考え方を大切にしています。中村は「一身の榮のみを念ぜず、常に世の為、人の為に思いを致すべし」という言葉を残しました。自分のことだけでなく、常に世の中の人たちのことを考えなさい、という教えは本校に染み込んでいます。

—— 成蹊小学校には「心力歌」という、尊い心の存在を気づかせる歌もあります。

これは、中村が1913（大正2）年に同士である小林一郎に依頼し制作されたもので、中村はそうした「心の教育」をとても大事にしています。子どもたちは全8章からなる漢文調の歌を音読し、卒業までにほぼすべて唱えられるようになります。

それは恐らく彼自身の経験がベースにあるのではないのでしょうか。本学園を創るために、中村は理想と全財産をすべてつぎ込みますが、開校直前に隣の学校の寮のもらい火ですべてが灰燼に帰してしまいます。

しかし、失ったときに「教育は教えたい人がいて、教わりたい人がいれば野原でもできる」と立ち上がり、再び学校を突貫工事建てて入学式に間に合わせました。困難や苦しいことに対峙したときに、それを乗り越える力が人間には必ず備わっていると信じているのですね。

—— 子どもたちの眠っている力を呼び覚ます、多彩な取り組みが魅力ですね。

本校の教育の特徴を、私は「適度な負荷」という言葉で表現しています。ちょっとした困難を乗り越える経験をさせながら、たくましい実践力を培っていくのです。

それを物語っているのが特色ある行事です。小学校の宿泊行事の最後を飾る6年生の「夏の学校」では2kmの遠泳を課しています。高校生やOBなど、80人くらいの方々に水泳師範団というサポーターを



日記指導

めてもらっていますが、まさに圧巻です。2列で泳ぐ子どもたちの両サイドには師範たちや船がつき、ちょっと辛くなると声をかけて、一緒に練習したことを思い出させ、口の中に氷砂糖を放り込んであげるのです。泳ぎ切った後は、みんな師範たちと泣いて喜んで、忘れられない思い出になっています。

—— 「凝念」という、集中力を高める精神集中法を採用しているのも特徴です。

中村は、自ら考案したこの黙想をとても大切にしていました。子どもたちは気が散りやすいものですが、凝念という自分自身に向き合う時間を持つことで、心の門、学習に向かう門が開くのです。毎日の授業の始めと終わりには必ず凝念を行って気持ちの切り替えを行い、集中力を高めています。

—— 音楽や美術、体育、英語などの教科については高い専門性を持つ教師が指導を行っているほか（専科制）、5・6年生では学年内完全教科担任制も採用しています。

本校は28人（4年生からは国際学級の生徒が加わり32人）4学級という少人数

の適正な環境で密度の濃い教育を提供しています。

先ほど教育の理念の中で「師弟の心の共鳴」を紹介しました。教育の基本は教える人と教わる人の心が通い合っていること。それが最も現れているのが「日記指導」です。1年の2学期から全員に日記帳が渡され、週に何回か書いて提出すると、先生が赤ペンを入れて返す。そうすると、楽しかったことや悲しかったことなど、子どもたち

の気持ちが手に取るように分かります。そうした中でいろんな言葉がけを行いながら、日々子どもたちに寄り添っています。

私は成蹊中学・高等学校で国語科を担当してきましたが（2021年3月まで同校の校長を歴任）、その経験からも「書くことは考えること」だと言えます。早い年齢から書く習慣を持つことは、物事を客観的に見つめる目を養う効果があります。文章力、国語力はすべての教科にもつながっています。

本物に触れ、グローバルで多様な価値観を養う

—— 実体験や表現活動など、子どもの個性や能力を育む独自の教科「こみち科」についてお教えください。

本校は創立当初からESD（持続可能な開発のための教育）の精神を取り込み、「本物に触れる」教育を行っています。どんなものでも、まず自分の感性を信じ、そこから得られるものを大事にしてほしい。校内には畑があり、1年生は二十日大根を植えて収穫して、みんなで大切にいただいています。そうした、土に触れる経験はとても大事なのです。

一方、教育にはICTも採り入れています。3年生からパソコンに触れ、WordやExcel、さらに6年生では各自で研究テーマを調べ、パワーポイントを活用し、みんなの前で発表するプレゼンテーションも行います。英語の授業でも「コロナが終わったら行ってみたい国や都市」といったテーマでプレゼンテーションをし、さらにクラスの代表同士で学年マッチを行って表彰する取り組みなどを行っています。

今日は3年生の児童が「写真を撮らせてください」と、iPadを持って訪ねてきました。理由を聞くと、リベラルアーツ5学園（旧制高等学校にルーツを持つ成蹊、学習院、成城、武蔵、甲南の各学校）の一つ、甲南小学校（神戸市）の人たちに学校紹介をするのに先生の写真が欲しいと言うのです。いろんなことで活用していますね。

甲南小学校との間では、短期と長期の教員の交換授業も行っていて、お互いのクラスを持ち合ったりしています。私立学校で

は教員の移動はありませんから、教師にとっても貴重な学びの機会になっています。—— 国際学級を1964年に設置するなど、学びの環境も国際性に富んでいます。

本校の帰国子女の受け入れは実は100年以上の歴史があります。戦争で一旦中断し、国際特別学級という名称で復活（1995（平成7）年「国際学級」に改称）したのが1964（昭和39）年です。小学校では、帰国生は1か月ほど国際学級で学び、その後一般学級に混入するのですが、帰国生は国際プレゼンテーションといって、自分たちの経験を仲間とシェアする催しも行っています。国際学級出身の子はとても柔軟な発想ができたり、多様性を理解していることが多く、とてもよい影響を仲間たちに与えています。

5・6年生になると、希望者がオーストラリアを訪れ、ホームステイをし、現地の学校に体験入学する「オーストラリア体験学習」も実施しています。コロナ禍でオンラインとなりましたが、今夏は約120人の学年のうち60人ほどが希望しています。—— 小学校から大学まで、異なる世代がワンキャンパスで学ぶ教育環境も大きな魅力となっています。

クラブ活動や運動だけでなく、学びの部分でも連携できないか、委員会を作って動いています。昨年度は委員会が関わった取り組みだけでも30くらいのイベントがありましたので、全体での数はもっと多いと思います。

本学園はESD活動の推進拠点であるユネスコスクールに認定されており、中高でも特別委員会のようなものを組織して活動していますが、その生徒たちが「うちの学校はこんなにすごいんだよ」と小学生たちに教えに来たり、面白いことをみんなでシェアして、知的好奇心の種まきをしているのもワンキャンパスならではのですね。—— キャンパスで特筆すべき施設がありましたらご紹介ください。

キャンパスそのものが自慢ですね。校舎



夏の学校での遠泳（6年生）

は小学校から高校まで成蹊学園で学び、建築界のノーベル賞といわれるブリツカー賞を受賞した坂茂さんが設計を手掛けたもので、豊かな光が差し込む温かみのある素晴らしい環境で子どもたちは学んでいます。

子どもたちはいろんな生き物が息息するビオトープも大好きですし、トンネル山グラウンドが一番人気ですね。成蹊学園では小中高大それぞれに図書館がありますが、小学校では2階部分がパソコンルームになっていて、授業でも使っています。図書も充実していて、4年生まで読書の授業もあり、ビブリオバトルやポスターセッションなども行っています。

—— すべての学びを「平和、共生、環境」に結びつけ、理想的な人間を目指す独自のプログラム「桃李科」など、まさに盛りだくさんのカリキュラムですね。

その間を縫うようにして、子どもたちは朝早くから下校時刻のギリギリまで、とにかく遊んでいます。本校では登校したら、汚れてもいいように子どもたちは校内に着替えます。学校では、制服では生活していません。基本的には通学と式典時のみ制服なのです。

保護者の皆様には下校指導でお手伝いをしていただくなど、他の子どもたちも含めてご指導をお願いしています。また3年生くらいになると、「働く人」というテーマで社会人のお話を聞く機会も設けていますが、保護者の方に声をかけると二つ返事で快諾していただいています。

—— 保護者の方々にメッセージを。

成蹊小学校は子どもたちに、さまざまな体験の機会を提供できる学校です。そうした経験を通じて、豊かな感性とたくましい実践力を持った子どもに育てたいと願っています。本校の建学理念に賛同してくださる方、こうした考えにご賛同いただける方に入学していただきたいと思っています。

学校には、勉強はもちろんのこと、人間関係であったり、失敗も含めて、さまざまな経験を学びに来ているのだと考えています。私は「お互いさま」という言葉を大切にしています。そのように、互いのことを許容し合いながら、皆さんとともに子どもたちを育てていきたいと願っています。



凝念（ぎょうねん）の様子



こみち科での栽培の授業